

ねりま小中一貫教育レポート

〇●〇 第 28 号 〇●〇

平成 26 年 11 月

発行：教育企画課・教育指導課

「ねりま小中一貫教育レポート」は、小中一貫教育の取組を全校で共有するため、随時発行しています。第 28 号では、小中一貫教育校大泉桜学園と小中一貫教育実践校「豊玉第二中学校・豊玉第二小学校・豊玉東小学校」の取組について紹介します。

◆1年生から9年生までが集う桜祭（大泉桜学園の音楽発表会）

大泉桜学園では小中一貫教育校ならではの文化的行事として、「桜祭」と名付けた音楽発表会を開催しています。桜祭は、全児童生徒が学校近くにある和光市民文化センターのサンアゼリア大ホールに集まり、1～9年生の全学年が合唱や合奏を披露します。

小中一貫教育校を開校する前、大泉学園桜中学校では、多くの中学校と同様、クラス対抗の合唱コンクールを開催していました。コンクールに向けてクラスごとに練習を重ねることで、クラスの団結を深めるねらいがありました。

大泉学園桜小学校では、多くの小学校と同様に、劇の発表がある学芸会を開催していました。一人一人の児童が役を分担し、学年全体で劇をつくりあげる貴重な機会でした。

小中一貫教育校としての文化的行事はどうあるべきか。合唱コンクールや学芸会に力を注いできた先生方にとって、ゼロから新しい行事を作り上げる苦勞は並大抵のものではありませんでした。小中一貫教育校になったのだから新しい行事を作りたいという思いの半面、今まで大切にしてきた行事ができなくなるのかと苦悩する声もありました。合唱コン



クールの良さ、学芸会の素晴らしさを継続させたいと願うあまり議論が行き詰りそうになったときは、今までのやり方にとられるのはやめよう、新しい学校なのだから、すべてゼロベースで考えていこうと声をかけあって検討が進められました。

10月23日に開催された第4回桜祭では、

1～9年生の全員合唱（=写真⑤）、5～9年生の吹奏楽部が演奏する低学年向けの曲にあわせて踊る1、2年生（=写真⑥）など小中一貫教育校らしい工夫を織り交ぜながら、各学年が力いっぱい歌いました。

会場の保護者からは「小中一貫教育校になって、桜祭も活気が出て良かったと思う」との声が聞かれました。



◆小学生が中学校の合唱コンクールで歌う豊玉第二中「文化発表会」

平成 23・24 年度小中一貫教育の研究グループ指定を受けていた豊玉第二中グループでは、以前から、豊玉第二小と豊玉東小の6年生が練馬文化センターで行う豊玉第二中の合唱コンクールを参観する小中連携の取組を行っていました。



小中一貫教育実践校となった昨年度からは取組を一步進めて、両小学校の6年生と一緒に中学生の前で合唱を発表しています (=写真㊸)。

文化発表会に先立ち、両小学校の6年生が豊玉第二中学校の体育館に集まって小小合同の合唱練習を行うなど十分な準備を行いました。

10月31日の文化発表会では、まず両校の小学生の合唱発表があり、元気な歌声が大ホールいっぱいに広がりました。「小学生たちの合唱が聞きたくて」と早くから来場された保護者の方もいらっしゃいました。中学生たちの合唱が始まると、両校の小学生は圧倒されたかのように身を乗り出して聞いていました。

◆豊玉第二中学校の新校舎に小中連携教室が整備されます

完成間近の豊玉第二中学校新校舎 (=写真㊹) の3階には、豊玉第二小・豊玉東小の5・6年生が中学校舎内で学習するための「小中連携教室」が整備されています。

「小中連携教室」は4教室を合わせた広さがあり、小ホールとして使ったり、可動式間仕切りで教室として使ったりできるようになっています (=写真㊺)。また、給食設備や靴箱は4



学級分の小学生の数を含めて整備しています。

来年4月以降、豊玉第二小・豊玉東小の5・6年生が月に1～2回程度「小中連携教室」で、下校時までの一日を中学校の先生から授業を受けたり、2小学校合同の授業を行ったりする「小中一貫教育プログラム」を実施する予定です。

このような小中一貫教育の形は「施設併用型」と言われて先進自治体の実践例もありますが、

練馬区では初めての取組となります。登下校の安全や給食におけるアレルギーへの対応などさまざまな課題を整理しながら、子供たちの学習活動が充実するよう3校の先生方が何度も集まって検討を進めています。

